



人権・同和教育だより＊3学期編

平成28年3月24日

◆3学期の人権・同和教育の研究授業は、2月18日(木)の6時間めに実施されました。1年生は「偏見を打ち壊せ！」として差別につながる私たちのものの見方について、2年生は「差別はなぜ残ったのか」について、「水平社宣言」の夜明けと戦後の同和問題対策について学びました。3年生は昨年度に引き続き、三浦成人さんによる講演「生きるということ」で差別の現実について考えました。以下は生徒の感想です。

<1年生>

- ・人から聞いたことをすぐには信じないで、**間違っていると思ったらちゃんと言うようにしたい**。今まで、自分が思い込みや偏見で物事を考えていたこともあるので、しっかり振り返りたい。
- ・自分の持っている偏見や思い込みで、他人まで捲き込まないようにしないといけないと思った。
- ・身の回りで思い込みや偏見・差別をしている人がいたら、**ハッキリと間違っていると教えようと思った**。いろんなコンプレックスを持っている人もいるのに、見た目で「この人はダメ」と決めつける人はいけないなと思った。
- ・自分は差別をしていないと思っていたけれど、**意外にしている**と思った。
- ・人権のことをよく知らなかったなので、たくさんのことを学ぶことができた。やってはならないことがあると分かった。
- ・今まで何気なく聞き逃していたことの大切さを知った。**今まで気づかなかったことも気づく**ことができた。
- ・差別はいけないと改めて思ったし、**軽はずみな言動が相手を傷つけているかもしれない**ことが分かったので、日々気をつけながら生活していきたい。
- ・**人に自分の思いを伝えるのはとても難しい**し緊張してしまうが、これから人とコミュニケーションをとるのは必要となると思うので、勇気を出して自分の世界を広げていきたい。
- ・これからは人権についてよく考えて生活し、職業差別や男女差別をしないように気をつけたい。
- ・人を見ただ目で判断したり、偏見を持たないようにしたい。
- ・1人ひとりが自分なりのやり方で頑張ればいいんだと思う。相手の気持ちをきちんと考えながら行動していきたい。
- ・一人ひとり考えることが違うので、ちゃんと聞くことが大切だ。
- ・**親も子に偏見や思い込みをさせるような発言をしている**時があると思った。
- ・周りの人の意見を聞くことも大事だけれど、意見を聞いただけで勝手な思い込みや偏見を抱くことは失礼だと分かったので、これからは私自身がそのものや人物についてしっかり知ったうえで判断していけたらと思った。
- ・感じることは人それぞれだから、それを考慮して上手な人間関係を築けたら、お互い無理することなくつきあっていける。
- ・ふざけてつい偏見や差別用語などを口にする人を見かけるが、相手の気持ちを傷つけたりいやな思いにさせてしまうことも多いと思う。そんな時には「そんなことないよ」と優しい言葉をかけて、止められるようになりたい。

<2年生>

- ・**一人ひとりの意識が低すぎるから**差別がなくならないと思いました。
- ・差別意識は人の好き嫌いも関係しているので、そこから差別に繋がらないようにしていきたい。
- ・50年間に渡って行われてきた差別をなくす運動なのですごく印象に残る言葉ばかりだった。この宣言文を読むと、大変な暮らしをしていたのだと感ぜられた。
- ・差別についてもっとみんなで深く考え、**その現状と実態をみんなに知ってもらう必要性がある**と感じた。
- ・差別を理解しない人たちがいるから差別がなくならない。差別をするといろいろな人が悲しむ。
- ・だれもが強い人間ではないので、自分の意志で自分らしく生きていけるような努力ができれば良い。
- ・差別内容がかなり残酷で卑屈なものだったので、かなり精神的にも傷つけられていたと思うが、その中でも自由のために立ち上がったことが素晴らしい。

- ・誰かの上に立って差別し、**優越感に浸るためにその人の幸せや権利を奪うことはすごく愚かで惨めな行為だ**。更に今では肌の色で差別する人がいるので、そのような行為も意味の無い行動だということを改めて知った。
- ・国民すべての課題となっているが、すべての人が解決しようとまじめに取り組んでおらず、**ほとんどの人は自分には関係ないと思ってしまっている面が今でもある**のではないかな。
- ・悪夢のような差別の中でも、祖先から誇り高く生きようとする人間の暖かい血を受け継いだことにより、今の時代があると思った。差別のない世の中を求める水平社は見習うべきだ。
- ・水平社宣言を実際に読んだのは初めてだったが、文章から差別を受けていた人がどれだけ苦しく辛かったのかが分かった。
- ・法令を作っても差別は完全にはなくなる。**外面ではなくなっているように見えても、内面ではまだあると思う**ので、差別が完全になる日が来るのはまだまだ先だなと思った。
- ・今も差別があるのは、差別していた人の子孫が**今もそれを引き継いでやっているから**だと思う。差別されている人だけが無くそうと思っても意味がない。
- ・ここまでくるのに、一体どれほどの苦労があったのかと思った。人間というものはどんな存在であるべきなのか、その思いから伝わった。しかし現在でもその思いも空しく差別はあるので、人権を考えることは大切なことだと思った。
- ・初めて水平社宣言を読み、差別を改善しようとした人たちがいることを知ってよかった。今も差別があるのは人間の差別心理が根深く、**新しく生まれてきた子どもに正しい教育が行き届いてないからではないか**。
- ・青年たちは、1人だけでは差別はなくなれないけど大人数でこの運動をして、差別を少しずつ無くしていったので、大勢で団結していけば現在の差別もなくなるのではないかな。
- ・差別をなくすために活動した若者たちのすごさを実感した。現在も差別がなくならないのは意志の強さの違いではないのかと思う。「本気でなくしたい」と思っているからこそ、「全国水平社」をつくり、「水平社宣言」を発表できたと思った。
- ・差別を受け続け、苦しくて追い詰められているにもかかわらず、自分たちの苦しみや悲しみ、思いなどをたくさんの人に伝えることができるというのは、素晴らしいことだ。人間は生まれた時から差別をする心を持っているのではないかな。その心を押し殺す力がある人が本当の優しい人だと思った。

◆◆感想を読まれてどうでしょうか？一人ひとりがしっかり受けとめ、よく考えてくれていることが分かります。この1年をとおして、1年生は自分の思いの伝え方、相手への見方や言葉づかいから、より良いコミュニケーションのあり方について考えてきました。2年生はわが国に根深く残る差別がどんなものだったか、差別が人の心や行動に与える影響から、どうしたら差別の根を断てるのか考えました。3年生は現実となってきた就職試験での差別面接への対応や働き方について考え、また実社会にある差別の実態については講演会で3年間の総まとめをしました。（講演会の感想は「人権・同和教育だより*卒業式編」として学校HPに掲載していますのでご覧ください。）その時に思ったことを忘れず、学校や家庭での日常生活にぜひ生かしてください。そして皆が1日1日を温かい気持ちで過ごすことが“あたり前”の学校や地域にしていきたいものですね。

◆◆◆今年度ももちまして、2年間の県の人権・同和教育研究指定校は終わりとなります。この軌跡は「人権・同和教育だより」昨年度第1～5号と毎学期&地球のステージ編の計9号と今年度第1～3号と毎学期&卒業式編の計7号でふり返ることができます。担当者として、この2年間でもっとも心に残っていることは、言葉の大切さです。生物学者の福岡伸一さんによると、入学したての大学生は、顕微鏡に映っている細胞の図が描けないが、細胞について学んだ後には、映っているものが正しく見える＝描けるようになるそうです。つまり、映っているものを“言葉で理解”したからです。私たちはそうやって、言葉でレッテルを貼り、世の中を理解しているのです。言葉はまた、私たちの大切なコミュニケーションツールですが、心ない言葉で相手を決めつけるいじめや差別は逆に、言葉を使って“本来ないものをあるように”現実化してしまうことではないでしょうか？「言葉は人を傷つけるためにあるのではない。（3年講演者三浦さん）」を忘れずに暮らしたいものです。そして、「いろいろあるけど、明日も頑張ろうと思える」学校でありたいものですね。ご愛読ありがとうございました。（文責 有川）

